

2020.04

Vol.030

公益社団法人 つくば市シルバー人材センター
働きませんか，健康で，たのしく

ぎずな

〈令和特集〉 就業契約が請負から派遣へ
佐倉SCへ視察研修
女性ボランティアたちの活躍
今年も贈り物を届けました！
冬期剪定講習会が盛況に開かれる
リフレッシュ講習会の実施
各地区の活動・交流活動レポート
新型コロナウイルスによる感染症



〈令和特集〉 就業契約が請負から派遣へ

（発注者との就業契約更新時に、従来の請負から派遣契約に切り換えるように、茨城県シルバー人材センター連合会（県シ連）等の指導のもとで進められています。相手企業との交渉が難航して契約が解除されたケースが起きたり、最近では新型コロナウイルスによる感染症騒ぎで、日本経済の落ち込み、ひいては就業先の減少が懸念されている状況です。就業先の消長は、シルバー存続の根幹にかかわる重要な問題です。現状と展望について、センターの理事長、前事務局長、ベテラン職員、広報から理事と委員に集まって頂いて、討論しました。）

〈派遣事業への移行がなぜ必要か？〉

— 本来は派遣法が法制化された時点で、就業形態が派遣に変わるべきでしたが、シルバー人材センターでは、全体的に従来の請負のまま継続してきました。三年程前から労働基準局や全国シルバー人材センター事業協会の指導で、就業先の指揮命令の下にあるような就業形態について派遣契約に変更するように指導されています。センター

は公益法人であり、収支相償を遂行する必要がありますが、法令を遵守する義務があります。

〈請負事業が残る道はあるのか？〉

— 剪定・草刈以外は、ほとんど残らないでしょう。理由は、請負は、会員が自らの裁量で業務を実施し、完成させる業務だからです。例えば、清掃業務で資材や用具を毎回会員が持ち込むのであれば請負になります。なお、契約した請負事業が偽装と認定されてしまう場合は、企業、センターとも処罰をうけることになります。

〈事業継続をキャンセルされた例は？〉

— 契約条件が合わず、施設管理や受付業務が契約解除となり、会員が他の就業先を探さねばならない実例がありました。

〈派遣に切り替わった場合、何が変わるのか？〉

— 派遣事業は、県シ連が「派遣元」となり、派遣就業を希望する会員は、「派遣労働会員」として派遣元と派遣労働契約（雇用契約）を結びます。派遣先事業主は、派遣労働者に対する労働安全衛生法、労働基準法等の法令上の措置を講ずる責任があります。また、シルバーの手数料も10%から20%にな

り、税金が外税になります。さらに「同一労働、同一賃金」の適用が進めば、請負より支出増になります。しかし、会員側としては待遇が改善され、有給休暇や労災の適用を受けることができるとは、県シ連が行う人材育成のための研修や講習を受けられるなど、大きな処遇改善が期待されます。

〈事務や清掃関係で派遣事業への契約更新が進んでいるのか？〉

— 現在は、概ね順調に進んでいます。事務局としても契約解除が発生しないように、慎重に交渉を行っています。

〈懸念される問題は？〉

— 他業者が直接雇用のメリットを生かして、入り込んでくる可能性があります。

〈就業先の開拓、拡大は？〉

— 派遣に切り替わる場合は事業者の交替やワークシェアが少なくなる可能性があります。就業先の開拓が大きな課題となります。現在、就業先の開拓はもちろん、会員の拡大も展開中であり、就業率50%を割らないよう、就業開拓に一層力を注ぐことになるでしょう。

〈最後に、就業問題も含めセンターの運営には事務局の体制が確立されていることが必要。どのような方向に持って

いききたいのか?)

—例えば配分金の計算には、人手も時間も多く必要とされます。またセンターでは、事務局、剪定業務、ふすま張り、自転車事業などで、人材育成が課題となっています。地区部会では、市内の六地区の連帯や細分化などが、今後の大きな課題と思われれます。

(派遣事業への移行が進められる中で、問題点を掘り起こしながら、夢とその実現することを期待しての今回の対談です。一般の会員に夢を語っていただけるように、センターの経営陣に期待したいところです。)

佐倉SCへ視察研修

2月26日、千葉県佐倉市シルバー人材センター(SC)への視察研修が行われました。研修には理事、各部会の役員および事務局の職員合計23名が参加し、佐倉市SCの事務所において佐倉市SCの田中会長や弘松副会長から事業内容、財務内容などの概要説明を受けました。その後、つくばSCから佐倉SCに示した7項目の事前質問に対し、項目ごとに回答と質疑応答が行われました。

この中で一番注目したのは、剪定、草刈り作業の受注からその実施までの期間が約二週間とつくばに比べ極めて短く、その受注方法にも大きな違いがありました。特に、作業の依頼が直接会員に行き、受注した会員が下見をし、見積を作成するシステムが導入されています。受注者によって見積額に差がなく、トラブルも起きていないとのことでした。研修や講習等を通じてしっかり統一した見積の作り方ができているものと考えます。さらに、各会員と依頼者の間に信頼関係があり、リーダーとして作業を依頼し、会員が業務の日程を直接依頼者に伝えることができ、待ち時間の短縮につながり、つくばにとって非常に参考になるシステムだと考えます。また、後継者を育てるために技術研修期間を定め、その業務のスペシャリストが技術を教え、この間は全く無償で技術を習得するシステムが導入され、研修者が嬉々として技術の研鑽に励んでいるとの報告もありました。

このほか、事務局に会員を雇用しての事務処理の遂行、事業としては利益が生じていないが、身障者や高齢者を目的地まで送迎する事業による地域へ

の貢献、市民の生活に適合したワンコインサービス事業の充実、会員の就業率の高いこと、多種類のパンフレットを作成し、会員と事務局が一体になって就業先を探すなど盛り上げていました。つくばSCとして今後見習うべき事業や管理方法、あるいは会議の冒頭に安全標語を唱和し、安全に対する意識を高めるなど多々あり、大きな課題を突き付けられました。

また、佐倉SCの事務所は、佐倉市が他の団体との共用を前提に建築されたとのこと。敷地内の建物の一角にふすま張りや障子張りの作業スペース、会員の交流建物もあるなど、つくばSCと比べ大きくゆつたりとしていて、つくばSCの手狭な施設から見えてうらやましく感じた次第です。



佐倉SC田中会長のあいさつ

〈女性ボランティアたちの活躍〉

みんな、おいで！

戦後の昭和二十年～三十年代は、みんなが貧しかった時代でした。まず食べることが先決で、生活に余裕がありません。ゆとりが出てきた近年は、貧乏という問題に、私たちはあまり関心を持たなくなっています。一方では、経済的に厳しいために、学習塾に行く余裕がなく、十分な食事の機会が少ない家庭がまだまだあるという現実が、意外にあまり知られていないことに気づかされます。サポートを必要とする子どもたちは、小学生、中学生、それに高校生まで存在するのです。

市の広報紙などでは、つくば市内に子どもも大人も2000～3000円で利用できるみんなの食堂が六ヶ所あり、市民から食料などのサポートの協力が呼びかけられています。地味ながらも、大切な活動だと思っています。

さらに調べていくと、民間のボランティアクラブ『ロベ』というNPO法人のもとで更生保護女性会谷田部支部が「ひまわり会」として、経済的に困難な子どもたちに対して月1回食事を作り、こども達に提供するサポート活

動を行っております。当センターの女性理事も参加していることを知りました。わが広報委員会は早速、みなさんが集まっておられる機会に訪ねてみました。

以前から市内のあるボランティアのサポートクラブが、学習支援、生活支援活動を行っており、最近では市内の市民ホールやたべの部屋を利用して、週に二回、学習塾に行きたくても経済的にいけない子どもたちへの無料塾を続けているそうです。これには大学生や一般の大人の人たちが協力しています。更生保護女性会谷田部支部の皆さんは、収入が少ない家庭や母子家庭で母親が夜まで働くために子どもたちが塾へも行け

ず、夕食も満足に取れない子供がいることを知り、まずは勉強後の軽い食事づくりで、協力をはじめました。いまのところは月に一回ですが、資



料理中のボランティアの皆様

金が乏しい中、お金を出し合って、米、味噌、野菜、カレー粉などの食材を持ち寄り、子どもたちに軽食を提供しています。毎回五十食分という量の多さなので、食材の調達と資金のやりくりが大変だという苦労話を聞きました。ともかくお腹がいっぱいになれば、子どもたちはとりあえず幸せ感に浸れるのではないかと、非行になるのも減るのではないかと思われれます。いま公的な補助を受けていませんが、会員の方々は、苦勞の多い中でやりくりをしつつも、子どもたちには笑顔で接し、話を聞いてあげるのが楽しみだそうです。「ひまわり」は、始まったばかりですが、頑張ってサポートして行きたい

◆やまびこ◆

新型コロナウイルスによる肺炎騒ぎで振り回される日本。2月25日の読売新聞は、感染拡大を招いたのは、中国の政権内部に巣食う「体制病」であると決めつけている。強大な政治体制下では、民主主義の基本である情報共有、情報公開が顧みられなかったツケが、災厄をまねいてしまったといえる。私たちの生活でもこういうことが起きてはいないだろうか。

ので、利用できる食材や子どもたちが学習でも運動でも使えるものあればぜひご協力をお願いしたいとのことでした。

今年も贈り物を届けました！

女性活躍委員会は数年前から小学校新入生の入学祝いとしてコップやお箸などを入れる巾着袋の贈り物を行ってきました。今年も3月3日、今鹿島、沼崎、上郷の3つの小学校に入学する新入生全員160名に、かわいい包装紙で巾着袋を包み、お祝いのメッセージと人材センターのチラシを添えた封筒を、それぞれの学校の校長先生に届けました。

巾着袋はセンター女性活躍委員会の会員の有志が毎月、第1、第3水曜日にセンター談話室に集まり、一つ一つ色や模様異なる布で丁寧我真



上郷小学校の藤井校長への贈り物贈呈

心を込めて製作されたものです。毎年、恒例として同じ学校に届けているため、新入生やお母さん方も楽しみに待っていて、学校の教材入れとして卒業するまで使っている生徒もたくさんいるようです。小学校はいまウイルス感染症予防に追われているところですが、かわいい贈り物、新入生の皆さんが元気に入学するのを待っています。女性会員によるこのサークル活動は、地域に確実に密着し、女性会員の交流の場として根付いてきたので、会員の参加者も年々増え、いろいろな作品が作られています。これら品々は販売もされていて、一般の希望者も購入することもできます。

冬期剪定講習会が

盛況に開かれる

令和元年度剪定講習会を1月20日から3日間開催し、75名の参加者がありました。初日は、「NHK趣味の園芸」の講師として活躍中の川原田邦彦先生を招いての講演とビデオによる松と梅の剪定方法の上映がありました。

2日目より実技講習に入り、農業環境変動研究センターにおいて『透し剪

定技術』の習得を目的とした実技研修を行い、これと並行して初級者（24名）を対象とした剪定の特別教育を実施しました。

参加者は講

演を熱心に聞き入り、そして剪定の実技では真剣に取り組み、無事に講習会を終えることができました。



剪定の実技研修風景

1年間の損傷および

損害事故について

今年度、損傷および損害事故数は全体で5件発生しました。その内訳は損傷事故2件、損害事故2件、交通事故として1件でした。

損傷事故としては、5月に脚立に載ったの剪定作業中、脚立のバランスが崩れて落下し、左足首亀裂骨折、10月に古くて腐食した引き戸を開ける際、引き戸と鉄柱の間に薬指をはさんで裂傷をおいました。損害事故は、5

月と10月に刈り払い機を使用しての作業で、石ハネによって駐車中の自動車のフロントガラスの損傷と地中ケーブルテレビの配線の切断でした。また、交通事故は、交差点でのもらい事故でした。

前年度の15件と比較し、事故数、重篤な事故数も激減しましたが、5件とも作業前の点検、作業中に注意や確認を行えば防げた事故、「安全第一、事故ゼロ」の目標に向けた作業の遂行を期待します。

剪定・草刈り技能検定試験 結果の発表

昨年5月に行なった令和元年度春季剪定技能検定試験および10月に実施した草刈り技能検定試験の結果がランク審査委員会から発表されました。

剪定技能検定試験は28名が受験し、Aランクに2名、Bランクに1名、Cランクに7名が昇格しました。草刈り技能検定試験は30名が受験し、6名がBランクからAランクに昇格しました。

昇格者の皆さんおめでとうございませう。残念にも今回昇格できなかった皆

さんは次回頑張ってください。

リフレッシュ講習会の実施

令和になって初めてのリフレッシュ講習会が、2月27日と3月5日に開催され、それぞれ35名と9名の参加がありました。リフレッシュ講習会は、入会3年目、6年目の会員を対象に毎年開催し、センターの現状や「接客・接遇」などを主題に外部から講師を招いて行っていました。今年度は、総務部会の研修・講習分科会の部員が講師となって開催しました。

まず、シルバーを取り巻く状況について、総務部会長から請負・委任事業から派遣事業への契約変更の流れとその際の問題点、就業時の心がまえなど、有益な話がありました。続いてスライドによる適正就業ガイドライン、安全管理と今年度発生した事故の原因と対策、お客さまへのよりよい接遇（マナー）など、シルバー会員としての基本についての説明がありました。

最後に、数名を班にし、イラストシートを用いた危険予防実践模擬体験を行い、それぞれのシートに「どんな危険があり、どう対処するか」について論

議し、その結果について 各班の代表者が発表を行いました。

各地区の活動レポート

【豊里地区】

〈出前教室の開催〉

2 / 25、出前教室を豊里交流センターにて開催しました。参加者は7人と少し寂しかったのですが、インストラクターの指導を受け、スクエアステップで脳トレをしながら、身体を動かしました。みなさんは足を巧みに動かしてがんばり、楽しい時間をすごしました。



出前教室での実習風景

〈4回目の食改を実施〉

2 / 16、食改を豊里交流センターで行いました。つくば市食生活改善推進員の指導のもと、4回目の食改を実施しました。参加者12名（男性6名、女性6名）、全員が料理に参加し、指導

員のレシピにチャレンジしました。できあがった料理をいただき、非常に美味しく、皆さん、和気あいあい楽しかったと口々に話しておられ、笑顔で解散となりました。



食改での料理風景

〈アダプト・ア・パークの開催〉

2/16(日)今年度3回目のアダプト・ア・パークを台山公園で行いました。会員15名が集まりました。いつもほとんどゴミはないのですが、今日は不法投棄などのごみがたくさんありました。年4回はやる必要があるように思いました。

【筑波地区】

〈健康交流サロンの開催〉

10月23日(水) 市民研修センターで健康交流サロンを開催しました。

交流サロンには、11名が参加し、市の健康増進課いきいきプラザ保健師の指導のもと、体力測定・体脂肪率・握力測定・棒反応などの健康測定を行いました。初めて参加した会員は測定デー

ターを見て健康増進の良いきっかけになったと話し、楽しくとても参考になった一日となりました。

【谷田部地区】

〈アダプト・ア・パークの開催〉

2月18日、今年度3回目のアダプト・ア・パークを高野台公園で行いました。ジャンパーを着た会員が定刻前から順次増え、里親(会員)が里子(公園)を我が子のように愛情をもって世話をする、ボランティアのプログラムが定着したものと一同喜んでいきます。

このあと、新聞紙を丸めボールを作りスタートラインからゴールポスト(的)に向かって投げ、ポストに当たればホールインワン、その他はポストに近い順に順位を争うゲームを行い、投げたたびに一喜一憂、入賞者にはささやかなプレゼントがあり、楽しい交流となりました。



ゲームに興じるボランティア参加者の皆様

各地区の交流活動レポート

【筑波地区】

〈宝篋山登山〉

11月3日

(日)、地区会員の交流と親睦を目的に宝篋山登山を行いました。

登山には男性6名・女性2名が参加し、山登りのベテラン成田会員のリーダーで全員無事登頂しました。山道でハツタケキノコやツツジ等の紅葉を観察をしながらの散策、見晴らしの良い頂上でのお弁当と楽しい一日となりました。



登山に参加した会員の皆様

〈歴史に学ぶ〉

ハルマヘラのかば焼き

ボケ防止には読書が妙薬。著名な民族学者の石毛直道著『食文化 新鮮市

場』（毎日新聞社刊 1992年発行）に、上記の一文をみつけました。インドネシアのハルマヘラ島の小さな村で調査を行っていた時に、村民が持ってきたちぎれた魚がどうもウナギリしい。調査隊長兼炊事係だった同氏による力作のかば焼きに隊員は箸をつけたが、箸が進まない。実に「ま・ず・い」。あとで分かったことは、ハルマヘラ島周辺地域には七種類のうなぎが棲息しているが、かば焼きにするニホンウナギとは異なる種類であったとか。話はここから。亡くなった筆者の親戚のおじいさんが、戦時中、兵卒として終戦までハルマヘラ島にいたそうです。本土からの補給が途絶して食糧は無く、炊事の煙が見えると上空を旋回している米軍機が機銃掃射してくる。仲間が亡くなった原因の大半が、飢餓と栄養失調、疾病です。おじいさんの一言はいつも、あの戦争と軍の上層部への批判でした。戦時中満州生まれの筆者は、戦後命からがらで引き揚げてきた苦労話を親戚からよく聴かされたので、おじいさんの話には特別な感慨を持ったものです。

〈新型コロナウイルスによる感染症〉

高齢者のみなさんはご注意を！

ついに2020年3月12日、世界保健機関（WHO）は新型コロナウイルス感染症の世界的な大流行（パンデミック）を表明し、国際社会に対し、流行の長期化を視野に入れた対策強化や協力を呼びかけたことが大きく報じられました。

この新型コロナウイルス感染症は、ウイルス性の風邪の一種といわれ、飛沫感染と接触感染によりうつること、重症化すると肺炎となり、特に高齢の人や基礎疾患のある人は重症化しやすい可能性があると警告されています。この新型コロナウイルスの正体がまだ完全につかめておらず、いまのところ治療薬、治療法に決め手に欠いているのが実情です。

風邪は人類最後の疾病と言われるくらいで、研究が進んで多くの風邪の病原ウイルスが発見されていますが、その中にコロナウイルスも含まれているのです。注意すべきは、コロナウイルスが最近二度もその名を表しているのです。記憶に新しいとこ

ろでは、2002-2003年SARS（重症急性呼吸器症候群）、2012-2013年MERS（中東呼吸器症候群）があり、いずれもコロナウイルスによって引き起こされたとされています。SARS、MERS、今回のコロナウイルスと、脅威がくり返されるたびに、高齢者にとっては厳しい試練にさらされているのです。まずは手洗い、マスクの励行と、人混みを避けましょう。

子育て支援ルーム きずなに礼状

子育て支援ルーム「きずな」の利用者から支援ルームのスタッフ宛にお礼と感謝の手紙がありました。これからも利用者の皆さんに愛され、安心を届ける「きずな」にしましょう。

表紙の説明

2-3月のつくば市を象徴するものといえば、やはり梅の花がその一つでしょう。空に向かって枝が伸びているところが健気に見えます。